

第 2 回熊本市部活動改革検討委員会

1. 第 1 回検討委員会における意見概要への対応等

| 意見等 | 対応（案） |
|--|----------------------------|
| 以前、事故による責任問題で学校体育から社会体育へ移行したことについて | 第 2 回部活動のこれまでの変遷等について（協議） |
| 先生たちにとって、部活動のポジティブな面を示し、地域移行してもそのような良い部分は残してほしい | |
| 体力や技術の向上だけでなく、部活動の教育的意義を整理してから議論する必要がある | |
| 熊本県内における少子化に伴い部活動を地域移行している実例を教えてほしい | |
| 小学校の実態を検証 | 第 2 回小学校部活動における地域移行の検証（協議） |
| 受け皿の問題（現在ある総合型地域スポーツでは受け皿として難しい） | 第 3 回部活動の持続可能な運営主体のあり方 |
| 送迎等に伴う安全上の問題 | |
| 総合型、スポーツクラブ、スポーツ協会の役割分担しながら、小中学校の部活動を行う | |
| 地域とか学校とかを考える前に、スポーツそのものの考え方の広さをもう 1 回捉え直さないといけない。地域移行をきっかけとして、今後の熊本市の子どもたちのスポーツの在り方や誰が主役なのかを考え直す必要がある。 | |
| 様々な立場の方が、少しずつ手を出して、育てていく仕組みをみんなで作り上げていきたい | |
| 拠点校方式による部活動の存続 | |

| 意見等 | 対応（案） |
|--|----------------------|
| 部活動指導委員の現状と成果 | 第4回地域社会との役割分担や指導者の確保 |
| 部活動の教育的効果を子どもへ情報発信が必要。指導熱心のあまり、生徒を傷つけたり、自殺することは避けなければならない。地域移行しても、指導者の人権意識等は最低限確保。 | |
| 教員に手当を支給した際、保護者の負担増について | 第5回地域移行に伴う経済的負担のあり方 |
| 経済格差による活動が出来ない子どもが出てくる懸念 | |
| 部活動は子どもたちにとっても良い機会。保護者にとっても送迎や費用、学校の先生が顧問をされる安心感がある | |
| 保護者負担 | |
| 指導費は安ければいいというものではない | 第6回その他 |
| 地域移行するには経過措置が必要 | |

2. 今後のスケジュール

| 年 月 | | 熊本市部活動改革検討委員会 | |
|------|-----------|--------------------|--|
| 令和5年 | 1月 31日 | 第2回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 文化庁検討委員会座長代理との意見交換 部活動アンケートの結果について 部活動のこれまでの変遷等について 小学校部活動における地域移行の検証について |
| | 2月 28日 | 第3回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> (仮) スポーツ関連有識者との意見交換 部活動の持続可能な運営主体のあり方について |
| | 3月 28日 | 第4回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の持続可能な運営主体のあり方について 地域社会との役割分担や指導者の確保について |
| | 5月 | 第5回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会との役割分担や指導者の確保について 地域移行に伴う経済的負担のあり方について |
| | 7月 | 第6回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 地域移行に伴う経済的負担のあり方について その他 |
| | | | 報告書中間とりまとめ |
| | 9月 | 第7回検討委員会 | 運動と文化に分かれて分科会を開催予定 |
| 11月 | 第8回検討委員会 | 運動と文化に分かれて分科会を開催予定 | |
| 令和6年 | 1月 | 第9回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の持続可能な運営主体のあり方について 地域社会との役割分担や指導者の確保について |
| | 3月 | 第10回検討委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 地域移行に伴う経済的負担のあり方について その他 |
| | | 報告書とりまとめ | |

※令和6年4月以降も熊本市部活動改革検討委員会を定期的に開催予定